

今回の研究会について

北海道大学大学院工学研究科、JSGA 理事
馬場 直志

第1回スペースガード研究会&天体力学N体力学研究会は2008年3月22、23日に明星大学で行われ、次回のスペースガード研究会を翌年度に北海道で開催するということが決まっておりました。第2回のスペースガード研究会は、天体力学N体力学研究会と合同では開催しないということも伝えられていました。研究会開催担当者として悩みましたことは、スペースガード研究会としての単独開催では広汎な参加者が見込めず小規模の研究会になってしまうであろうということで、ジョイントさせる研究会としてどのようなのが適当かということでした。そこで考えついたのが、北大が名寄市天文台に建造中の1.6m望遠鏡に関連する研究会です。この着想に至ったのには、岡山理科大で行われた日本天文学会2008年秋季年会での企画セッション「中小口径望遠鏡による天文学」の盛況がありました。ただ、再度中小望遠鏡とすると天文学会のと様となりスコープも広がってしまうため、美星スペースガード1m望遠鏡、北大1.6m望遠鏡を意識して1m級望遠鏡という縛りをつけることにしました。そして研究会の名称を「第2回スペースガード研究会&1m級望遠鏡による天体観測」としました。開催地には北大望遠鏡が設置される名寄市、名寄よりはアクセスのよい旭川市を検討したのですが、結局JR札幌駅から徒歩10分の北大百年記念会館としました。

今回の研究会は年末の12月21、22日となったのですが、幸いにも40名を超える参加者があり、28件の発表がありました。講演のプログラム編成においては、「1m級望遠鏡による天体観測研究会」に出席で初日の午前に不都合な方が何名かおりましたので、最初にスペースガード関連の研究発表を並べました。そして1m級望遠鏡による太陽系小天体観測などとしました。これにより、スペースガード研究会から1m級望遠鏡による天体観測研究会にスムーズに繋がったと思います。1m級望遠鏡による天体観測ということで、いろいろな観測対象に関する発表があり、研究分野横断的な研究会になったと思います。研究会ではお二人の方に講演を長くしていただきました。高橋幸弘さんには北大望遠鏡の紹介を兼ねて北大1.6m望遠鏡で狙う惑星科学について、産総研の稲場さんには異分野からの発表として光周波数コムと系外惑星探査への応用について講演していただきました。

今回の研究会の開催にあたり、スペースガード研究会についてはJAXAの吉川真さん、JSAGAの高橋典嗣理事長、そして1m級望遠鏡による天体観測研究会については北大の山本哲生、高橋幸弘、村上尚史の各氏に大変お世話になりました。最後になりましたが、ご参加いただいた皆様方およびお世話いただいた方々に感謝いたします。